

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 03-030999

(43)Date of publication of application : 08.02.1991

(51)Int.Cl.

B43K 3/00

(21)Application number : 01-163752

(71)Applicant : UEHARA EIICHI

(22)Date of filing : 28.06.1989

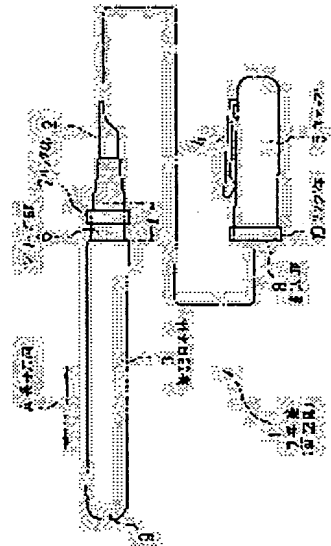
(72)Inventor : UEHARA EIICHI

(54) WRITING UTENSIL

(57)Abstract:

PURPOSE: To control weight balance corresponding to the taste of a writing person by providing a weight balance controlling ring body whose position is freely controllable in the longitudinal direction to the grip part of a writing utensil main body.

CONSTITUTION: A cylindrical grip part 6 having a length (l) in the longitudinal direction thereof is formed to a writing utensil main body 3 and a ring body 7 having a weight of 2-3g is externally fitted to the grip part 6. This ring body 6 is externally fitted to the grip part by definite friction force and, by applying force equal to or more than said friction force to the ring body 7, the position of the ring body 7 can be controlled within the length (l) of said grip part 6. Further, the ring body 7 can be detached from the writing utensil main body 3 and can be also replace with a separate ring body having a different weight. A separate ring body 10 having a weight of 3-4g is also mounted to the outside part of the insertion 8 of a cap 5. The ring body 10 can be also detached from the cap 5 in the same way as the ring body 7 of the writing utensil body 3 and can be replaced with a separate ring body having a different a weight.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許出願公告番号

特公平8-29631

(24) (44) 公告日 平成 8 年 (1996) 3 月 27 日

(51) Int.Cl.⁶

B 4 3 K 3/00

識別記号

Z

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

請求項の数 3 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平1-163752

(22) 出願日 平成 1 年 (1989) 6 月 28 日

(65) 公開番号 特開平3-30999

(43) 公開日 平成 3 年 (1991) 2 月 8 日

(71) 出願人 999999999

植原 栄一

宮城県仙台市青葉区中央 3 丁目 8-5

(72) 発明者 植原 栄一

宮城県仙台市青葉区中央 3 丁目 8-5

(74) 代理人 弁理士 高月 猛

審査官 宮崎 恭

(56) 参考文献 実開 平 2-97087 (J P, U)

(54) 【発明の名称】 万年筆

1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 万年筆本体とキャップとから成り、バランス錘を有する万年筆において、上記バランス錘が万年筆本体のグリップ部に設けた第 1 リング体と、そしてキャップの差込部外側に設けた第 2 リング体とで構成され、キャップを万年筆本体の基端部に被せた使用状態において第 1 及び第 2 両リング体の調整重量をペン先に施すことを特徴とする万年筆。

【請求項 2】 第 1 リング体が万年筆本体のグリップ部に長手方向で位置調整自在に設けてある請求項 (1) 記載の万年筆。

【請求項 3】 第 1 及び/又は第 2 リング体が異なる重量の別のリング体と交換自在であることを特徴とする請求項 (1) 又は (2) 記載の万年筆。

【発明の詳細な説明】

2

〈産業上の利用分野〉

この発明は万年筆、特に万年筆本体とキャップとに配分された重量を調整自在とした万年筆に関する。

〈従来の技術〉

万年筆はその種類、形状、太さ、長さ等の種類により長手方向での重量バランスが異なる。そして、この重量バランスに関する適合・不適合は書き手の万年筆の持ち方、筆圧、感性等で大きなバラツキが生じ、全ての人に合った重量バランスの万年筆というものはない。このような要請に答えるべく、筆記具本体の先端部に位置調整自在にして錘を設ける筆記具が提案されている (例えば、実開平 2-97087 号公報)。

〈発明が解決しようとする課題〉

書く人の手にしっくりこない重量バランスの万年筆を使用し続けると、手が疲れたり、字が乱れたりする弊害

が生じていた。特に文章の構成に多大な労力を費やす書き手にとって文字が書きづらいということは、それだけで心理的な圧迫感が生じて文章作成上の大きなマイナス要因となる。

ところでその提案は、筆記具本体のみに錘を設けるだけのものであり、鉛筆芯やボールペン先のように硬くて素材自体が可撓性を有していない場合であればともかく、万年筆の如くペン先を撓ませてその撓み具合に応じた必要量のインクをそこに施し紙面に文字を描く場合ではより微妙で繊細な重量のバランス調整が必要とされる。

この発明はこのような従来のバランス錘を有する万年筆に着目し万年筆の特性に合うよう更に改良したものであり、重量バランスを書く人の好みに応じて微妙に調整することができる万年筆を提供せんとするものである。

〈課題を解決するための手段〉

この発明に係る万年筆は、上記の目的を達成するため、万年筆本体とキャップとから成り、バランス錘を有する万年筆において、上記バランス錘が万年筆本体のグリップ部に設けた第1リング体と、そしてキャップの差込部外側に設けた第2リング体とで構成され、キャップを万年筆本体の基端部に被せた使用状態において第1及び第2両リング体の調整重量をペン先に施すものとした。

また、第1リング体が万年筆本体のグリップ部に長手方向で位置調整自在に設けてあるものとした。

更に、第1及び／又は第2リング体が異なる重量の別のリング体と交換自在なものとした。

〈実施例〉

以下、この発明の好適な一実施例を図面に基づいて説明する。1が万年筆であり、ペン先2を先端に備えた万年筆本体3と、クリップ4を側部に備えたキャップ5とから成っている。この万年筆本体3には長手方向（図中A方向）で長さ1の円筒状のグリップ部6が形成されており、このグリップ部6に重量2〜3gの第1リング体7が嵌装してある。この第1リング体7は一定の摺擦力でグリップ部6へ嵌装してあり、その摺擦力以上の力を加えることにより、このグリップ部6の長さ1の範囲内で位置調整できる。尚、この第1リング体7は重さの異なる別のリング体（図示せず）に交換することができる。

キャップ5は、非使用時にはペン先2の部分に被せておくものであるが、使用時には外され、その差込部8から万年筆本体3の基端部9に差込まれるものである。そして、このキャップ5の差込部8における外側にも、重量3〜4gの第2リング体10が取付けてある。この第2リング体10も万年筆本体3の第1リング体7と同様に、重さの異なる別のリング体（図示せず）に交換することができる。

このように万年筆1は、その使用時に万年筆本体3へキャップ5を被せた状態において、万年筆本体3とキャ

ップ5の双方に各々配された第1リング体7と第2リング体10が相まって「バランス錘」として機能する。即ち、双方に重量配分され且つ双方で重量バランスすることになるから、ペン先2に施される調整重量は非常に微妙且つ繊細なものとなる。

次に、この万年筆の重量バランスの調整の仕方を説明する。

調整手段1

使用に際してキャップ5を万年筆本体3の基端部9へ差し込んだ状態にすると、万年筆本体3の第1リング体7とキャップ5の第2リング体10とが万年筆1を支える指先の支点の一方と他方に各々配されることになる。この状態で、第1及び第2両リング体7、10は各々の錘としての重さを、一方と他方に配分された条件の下で、即ち重量配分された条件の下で、ペン先2に調整重量を与える。そして更にグリップ部6の第1リング体7をその長さ1範囲内で位置調整することによりキャップ5に取り付けてある第2リング体に対する重量配分が変化させられ、万年筆1全体の微妙な重量バランスの調整を図り調整重量をペン先2に与えることになる。

調整手段2

第1リング体7及び／又は第2リング体10を万年筆本体3から取り外して、別の重さのリング体に交換することにより、一方・他方に与えられた重量は遺文が変化させられるのでその分の調整された重量でペン先2を撓ませる度合い、具合の調整がなされる。

〈発明の効果〉

この発明に係る万年筆は、以上説明してきた如き内容のものであって、書く人の好み、即ち万年筆の持ち方、筆圧、感性等に応じて、万年筆本体とキャップとに配分された重量で、しかも双方の重量をバランスさせた調整重量の付与の下で、ペン先の微妙な撓み具合を調整することが可能となり微妙にして繊細な最適の重量バランスを得ることができるものである。そのため長時間使用しても手が疲れず、また書くことに対する心理的な圧迫状態がないので、万年筆にとっては生命ともいえるべき「書き易い」という最大の利点を期待できる。

【図面の簡単な説明】

第1図はこの発明の一実施例に係る万年筆のキャップを外した状態を示す側面図である。

第2図は、第1図で示した万年筆のキャップを万年筆本体の基端部へ差し込んだ状態を示す側面図である。

1……万年筆

3……万年筆本体

5……キャップ

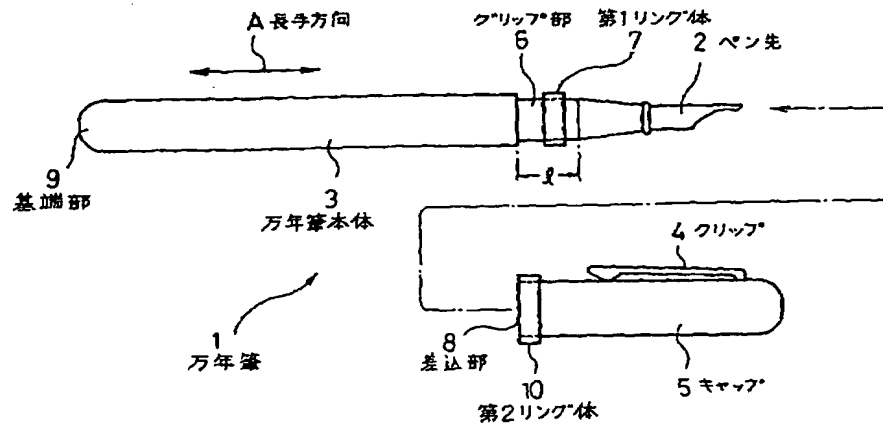
6……グリップ部

7……第1リング体

8……差込部

10……第2リング体

【第1図】



【第2図】

